

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第43週 (10/19-10/25) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		43週	42週	41週	40週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市						千葉県
		注意報	10/19-10/25	10/12-10/18	10/5-10/11	9/28-10/4	10/12-10/18	
			43週	42週	41週	40週	42週	
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	1	
	咽頭結膜熱		0	0	1	1	7	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6	3	3	7	110	
	感染性胃腸炎		28	27	29	27	171	
	水痘		2	5	0	6	15	
	手足口病		1	0	1	1	4	
	伝染性紅斑		1	0	0	0	4	
	突発性発しん		10	13	6	10	67	
	ヘルパンギーナ	○	6	3	9	5	5	
	流行性耳下腺炎		1	0	2	3	10	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	1	0	0	
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0	
	流行性角結膜炎		2	2	0	0	12	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0	
	無菌性髄膜炎		1	0	0	1	1	
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(59件)

※新型コロナウイルス感染症54件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	30歳代	病原体等の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定
結核	女性	50歳代	IGRA検査	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出
ウイルス性肝炎	男性	40歳代	血清IgM HBc抗体の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等

・第43週は、結核2件(132)、ウイルス性肝炎1件(3)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(5)、梅毒1件(15)、
新型コロナウイルス感染症54件(783)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第43週のコメント

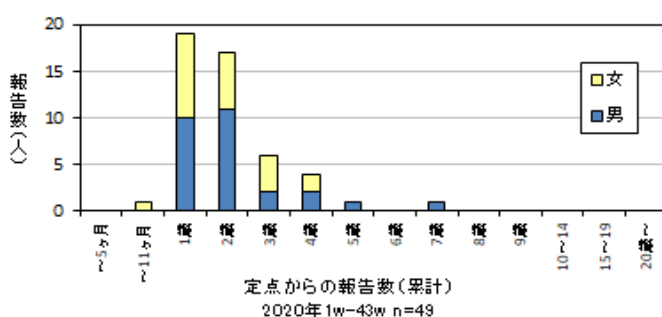
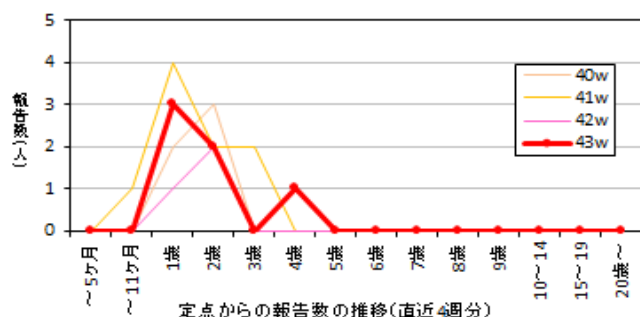
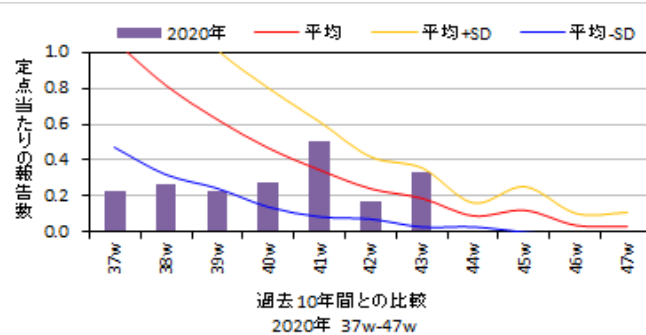
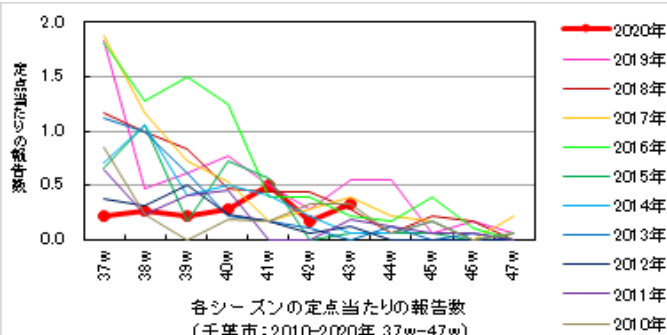
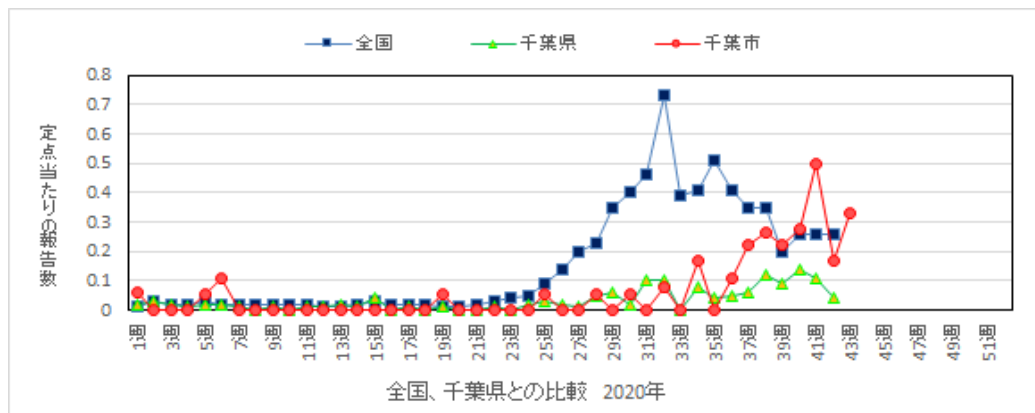
過去10年の同時期と比べると、ヘルパンギーナ以外は全て平均未満が無しであった。

<トピック>

<ヘルパンギーナ>

全国の第42週の定点当たりの報告数は0.26で過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では山形県、山口県、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は0.04で全国レベルより少なくなっています。

千葉市では例年とは異なり遅く増加し始め、第28週から次第に増加しています。第43週は前週より増加し0.33となり、過去10年の同時期と比べると多くなりました。区別の発生状況は若葉区で最多で、同区の1歳、2歳及び4歳で発生報告がありました。2020年第1週から第43週までの累積報告数は49件で、男性が55.1% (27件)、女性が44.9% (22件)となっています。年齢階級別では、1歳(38.8%:19件)、2歳(34.7%:17件)、3歳(12.2%:6件)の順で多くなっています。



ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎で、例年夏季に流行します。患者の年齢は5歳以下が全体の90%以上を占め、1歳代がもっとも多く報告されています。

原因ウイルスは主にエンテロウイルスの一種であるコクサッキーウイルスA群で、2、3、4、5、6、10型などの血清型が分離されます。エンテロウイルス属の宿主はヒトだけであり、感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。急性期にもっともウイルスが排泄され感染力が強いですが、エンテロウイルス感染としての性格上、回復後も2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあります。

潜伏期は2～4日で、突然の38～40℃の発熱が1～3日間続き、咽頭痛や咽頭発赤が現れ、口腔内に1～5mmの小水疱、これから生じた小潰瘍、その周辺に発赤を伴ったものが数個認められます。全身倦怠感、食欲不振、嘔吐、四肢痛などが起こる場合もあります。

予防方法は咳エチケットや出来るだけ感染者との密接な接触を避けるほか、通常の手洗いに加え、特に患児のおしめを替えた後などは良く手を洗うことです。